

進捗状況の概要【1ページ】

東京外国語大学は「世界から日本へ、日本から世界へ-人と知の循環を支えるネットワーク中核大学-」構想により、大学の教育・研究体制のグローバル化を進めている。構想は **I. 多言語グローバル人材養成プラン**、**II. 発信力強化プラン**、**III. 大学グローバル化支援プラン**の3つの柱をもち、次のように進捗している。

I. 多言語グローバル人材養成プラン

世界諸地域の言語・文化・社会に通曉し、世界の多様性・多元性に対応しうる本学独自の多言語グローバル人材養成のため、以下の取組を進めた。

①本学で教育する諸言語の達成度を国際標準に基づき可視化するため、「**CEFR-J x 27 プロジェクト**」を立ち上げ、欧州言語共通参照枠 CEFR を用いた言語能力指標の設定を進めた。平成 28 年度には本学の専攻言語 27 言語に **CEFR-J による統一基準**を共有し、教育用言語材料の構築を進め、23 言語に関しては A2 まで語彙表の整備を完了した。平成 29 年度には全専攻言語で **CEFR-J 判定**を実施する。英語力の指標としては、学部生の卒業までの目標として「**TOEIC800 点**」を掲げ、英語教育の充実に努めるとともに達成者数を測定している。達成者数の割合は平成 25 年度から、26.9%、25.8%、34.8%、37.5%と進捗している。

②海外協定大学と協働し国際的な環境での教育の提供のため、海外協定校教員による集中セミナー、本学学生と海外協定校の学生がともに参加するスタディツアーや遠隔授業、大学院生の共同指導の実現など、新たな形態による **Joint Education Program** を展開した。プログラム数は**平成 26 年度 12 件から平成 28 年度の 28 件に拡大**し、綿密な準備のもと、学生に対し国際的な環境での学習機会が提供されている。

③学生の流動性の確保のため、国際戦略に基づく**国際学術交流協定校の拡大**に取組み、平成 26 年度から平成 28 年度までに、**40 大学と新たに学生交流協定を締結**し、協定により可能となる受入及び派遣留学生の数を 72 名増加させた。また、留学制度の整理を行い、長期の交換留学・休学留学・自由留学・インターンシップ留学、短期の短期海外留学・短期インターンシップ留学・スタディツアーの各種を整備し、その多くを単位取得を伴うものとして制度化した。これにより、単位取得を伴う通年の留学経験者数（学部）が**平成 25 年度の 119 名（3.2%）から平成 28 年度の 723 名（19.6%）**に増加した。また、**留学を 2 度経験した学部卒業生は、平成 28 年度に 10.9%**となった。

受入についても協定校の増加に伴う交換留学生数の増加に加え、Joint Education Program による短期の受入れや夏期・冬期の日本語教育ショートステイプログラムの実施により、大学間協定に基づく受入れ数が、**平成 25 年度の 196 名（4.3%）から平成 28 年度の 350 名（7.4%）**に増加した。

④自主的・計画的な学びの実現のため、平成 27 年度から「**TUFS クォーター制**」を導入した。これにより大学が提供する短期留学プログラムが増加し参加学生が増えたのみならず、海外協定校教員による集中セミナーによる Joint Education Program が充実した。

⑤国際通用性の強化のため、英語と日本語を併用して学ぶ「多言語カリキュラム」の整備を進め、学部における外国語による授業数を、**平成 25 年度の 108 科目（7.2%）から平成 28 年度の 171 科目（13.1%）**に増加させた。また、英語による科目を学部必修科目（導入科目、概論科目）に配置することにより、英語による科目のみを履修し卒業ができる体制の整備を進めた。

II. 発信力強化プラン

①海外における日本発信力強化に貢献するため、日本語教育・日本紹介を行う拠点として本学の主要な海外協定校に **Global Japan Office** を計画的に設置した。その数は、平成 28 年度末時点で **12 拠点**である。

②本学学生の日本発信力涵養のため、学部学生を対象にした「**全学教養日本カプログラム**」を平成 27 年度に開設し、日本語、日本文化、日本社会等を英語と日本語で**国際的な視野から**教授している。本プログラムの開講科目は海外からの交換留学生にも開放され、本学学生と留学生の共学が実現している。

III. 大学グローバル化支援プラン

①大学のグローバル化支援のため、平成 26 年度に「**TUFS 留学支援共同利用センター**」を設置した。本学学生向けに留学フェアや各種相談会を実施したほか、**他大学への情報提供や多摩地区の他大学留学生への支援**により、他大学のグローバル化支援を行った。

②海外で学ぶ本学以外の留学生への支援のため、本学が設置した **Global Japan Office** を他大学からの学生に開放している。特にヤンゴン大学やロンドン大学の Global Japan Office では支援の活動が活発である。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

本学の取組のうち、特筆すべき成果をあげているのは、TUFS 留学支援共同利用センターと、世界各地に展開している Global Japan Office の活動である。

① TUFS 留学支援共同利用センターによる留学者数徹底把握

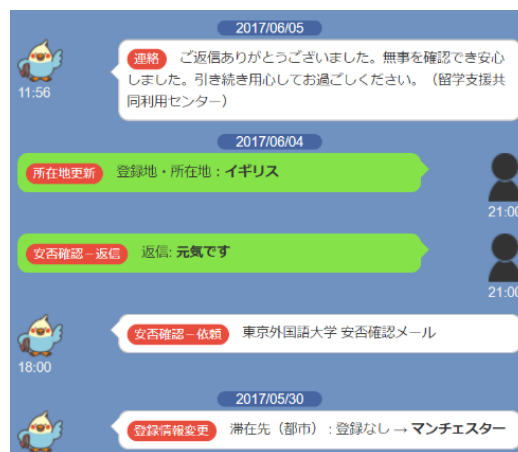
従来、休学の上、様々なかたちで留学を行う学生の多かった本学では、学生の留学の実態は完全には把握できていなかった。しかし、TUFS 留学支援共同利用センターの活動により、この点は徹底的に改善された。まず、留学の実態に即して留学制度の整理を行い、交換留学・[単位認定を伴う]休学留学・自由留学・インターンシップ留学（以上、長期留学）と、短期海外留学、短期インターンシップ留学・スタディツアー（以上、短期留学）に整理し、届け出制度と単位認定の制度を整えた。また、この間に海外の協定校を40校増やし、これにより交換留学の数を増加させたほか、短期留学では世界の協定校に少人数ずつ送り出すきめ細かい年間100以上のプログラムを編成し、質の保証された短期留学を実現した。これらの全容は『留学白書2014』、『留学白書2015』、『留学白書2016』にまとめられている。

	H25	H26	H27	H28
本学学生の全世界的展開	447	751	1,045	1,111
北米	44	112	134	156
欧州	183	254	374	361
ロシア／中央アジア	66	71	81	89
アフリカ	1	14	20	29
中近東	20	43	49	46
東南アジア	45	114	151	156
南アジア	1	21	24	20
東アジア	69	83	138	145
中南米	11	15	32	70
オセアニア	7	24	42	39

大学独自の成果指標4：本学学生の世界的展開

② 留学者の世界展開と安全対策

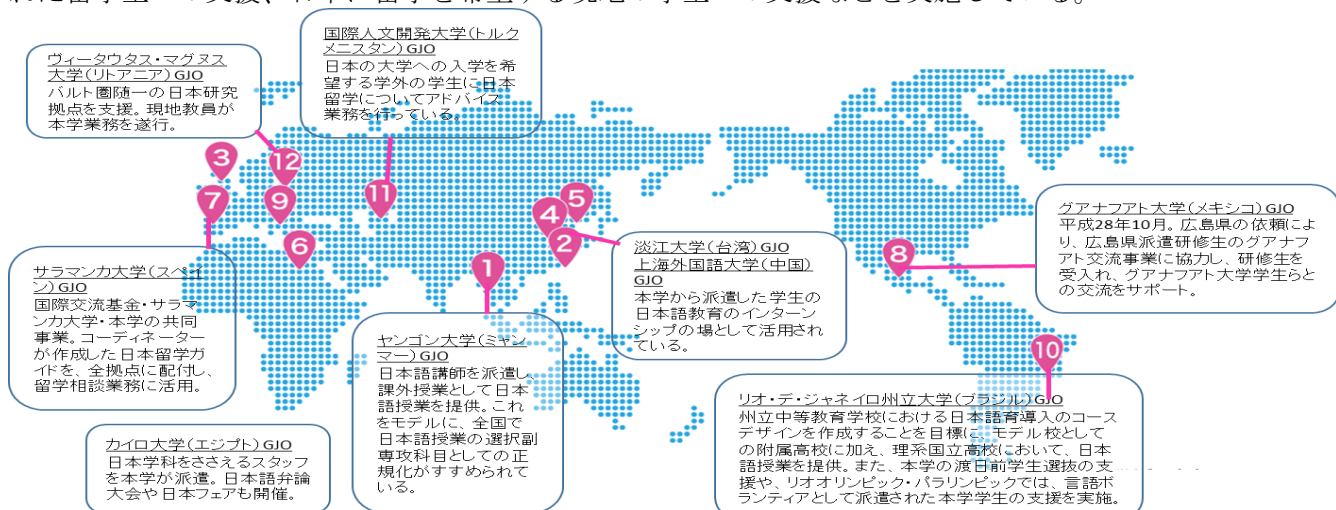
その結果、右上図のように、世界各地への留学者数が増加している。そこで問題になるのが安全対策である。TUFS 留学支援共同利用センターは、安全対策、感染症対策など留学前に参加する講習会の実施のほか、留学中の学生を把握するため、「ただいま海外留学中」サイトを運営している。同サイトは簡便な手法で連絡をとれる仕組みをもつ。これにより日常的な連絡体制を構築し、非常事態に備えている。頻発する各地のテロなどの際には、迅速な対応が可能となり、安否確認や注意喚起においてその効果を発揮している（右図）。



テロ事件後の「ただいま留学中」連絡画面

③ Global Japan Office の全世界的展開

安全な留学を支えているもう一つの仕組みが Global Japan Office (GJO) である。留学中の学生にとって本学オフィスの存在は何より心強い。本学は、主要な海外協定校12校にGJOを設置し、日本から派遣された留学生への支援、日本に留学を希望する現地の学生への支援などを実施している。



さらに各 GJO は、協定校のニーズに応え、日本語教育者の派遣など日本語教育の支援を行っている。これらの活動は、本学が長年築いてきた協定校との信頼関係に基づいている。各 GJO には、本学コーディネーターが駐在するが、本学が全学負担するのはヤンゴン大学 GJO など2つの GJO にすぎず、残る10の GJO では、先方大学による本学紹介者の雇用や、先方大学の教職員への業務委託を行い、本学負担を軽減している。また、12の GJO 中、10の GJO では先方大学よりオフィスの無償提供を受けている。さらに国際交流基金（サラマンカ大学 GJO、ヤンゴン大学 GJO）による日本語講師の派遣が実現しているほか、JICA（リオ・デ・ジャネイロ州立大学 GJO）との協働に向けて検討が進んでいる。こうした運営上の工夫や、先方大学・関係機関との協議により、事業の継続体制を構築している。